



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

(HP) <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> (e-mail) office.osaka@nsk.org

第406号 2009年4月12日発行

最近、新作の『ローマ帝国に挑んだ男』パウロ』という映画のDVDを見ました。使徒言行録にほぼ忠実にパウロの前半生を描いた作品ですが、その中でもクライマックスの場面は、やはり何と言ってもパウロの回心の場面です。パウロが天からの強い光に打たれて目が見えなくなり、そのとき「サウル、サウル、なぜわたしを迫害するのか」という復活された主イエスの声を聞くのです。そしてこのときを境にして、パウロの人生は一変します。これまでの迫害者から、福音の宣教師に生まれ変わるのである。わたしたちの人生で、こんなにも劇的な回心はあり得ないかも知れませんが、復活のキリストに出会って、人生が変わった、変えられたという経験は多くの方がお持ちだと思います。それこそが、イエス・キリストの復活の中心的なメッセージではないでしょうか。「死んでいたのに生き



新しい生き方へ

司祭 ペテロ 岩城 聡

返り、いなくなっていたのに見つかった。」というのは、放蕩息子が帰ってきたときに、父親が喜びのあまり口にする言葉です。「死んでいた」というのはもちろん比喩的な意味ですが、わたしたちは現代の社会で、さまざまなこの世の価値観に呑み込まれ、お金や地位を追い求めるあまり大切なものを見失ったりします。また、他人と見比べて劣等感にさいなまれたり、絶望に陥ったり、しゃかりきになって働いたり、子育ての忙しさに自分を見失ったり、肉体的な衰えに不安を憶え寂しく感じたり…そんなとき、わたしたちは本当の意味で「生きていない」ということができなくなるかもしれません。イエス・キリストに出会って、生き方

を変えられたとき、私たちは「生かされる」ということができるのだと思います。ところで、この世の価値観で一番強いものは、自分にとっての豊かさのみを追求する利己主義ではないかと思えます。3月23日から26日まで、香港で「アジア太平洋地域聖公会気候変動会議」が開かれました。地球温暖化など

ろしい事態が進行しているということでした。その根源は、快適さや物質的豊かさを追求める人間の利己主義、エゴイズムにあります。アダムとエバが「禁断の木の実」を食べたように、私たち人間は「私の被造物である自然を立派に管理しなさい」という神の命令に背いて、快適さや物質的豊かさ、物質的満足という「禁断の木の実」を食べ続けてきたのです。この世の価値観は、人間の罪に基づいています。私たちは復活のイエス様に出会うことによってこの価値観からの転換（メタノイア // 悔い改め）を成し遂げ、地上ではなく天に宝を積むことができるように、まず隣人を愛することができるように、そして自然の被造物と共に生きることができるようになる、生まれ変わらなければならないのではないのでしょうか。（いわきあきら 堺聖テモテ教会・聖ルシヤ教会牧師、プール学院大学チャプレン）

宣教協働(姉妹教区)関係延長調印式のため 大西 主教ら 台湾聖公会教区会に出席

宣教協働(姉妹教区)関係延長調印式のため



締結書を交換する大西主教(右)と、頼主教(中央)

3月6日から7日にかけて、台湾聖公会(正式名称は米国聖公会第8管区台湾教区)の教区会が台湾南部の高雄、聖テモテ教会で開かれ、その第1日目に、大阪教区との宣教協働(姉妹教区)関係更新の調印式が行われた。大阪教区からは、大西修主教夫妻を始め台湾交流委員会の代表など7人が出席し、調印式に先だって行われた聖餐式に参列した。大西主教と岩城聰司祭はプロセスジョンに参加し、共

同式式を行った。調印に臨んだ頼主教と大西主教は、用意された別掲のような締結書に署名捺印し、互いに交換し、堅く握手を交わした。また、それぞれの教区の司祭によつて締結書が中国語と日本語で朗読された。(別掲) 聖餐式の後、昼食を挟んで

明らかにし、今後、より深いレベルで、また、実際の関心事に基づいて協働関係を発展させる決意を明らかにした。また、その後、双方からの記念品の交換、紹介、挨拶が続き、暖かい家族的な雰囲気の内交流が進められた。実質的な議事に入つてからは、訪

問団は議場を退出し、主教夫人、司祭夫人(台湾では師母という)らの案内で、散策にかけた。夕食後、改めて、両教区の交流と協力の具体的な可能性について協議が行われた。幼稚園・保育所の交流、青年・女性の交流、聖職の人的交流などの可能性が前向きに話し合われた。とくに、代

して、交流会は終了した。翌7日は、朝8時から聖書研究が行われ、大阪教区の岩城司祭が創世記1章に基づいて、神の創造の恵みと自然の管理者としての人間の役割について説明と問題提起を行い、和やかな内にも真剣な学びと分かち合いが行われた。その後、訪問団は古都台南に向かい、台湾の史跡や名所を見学し、台北に向かった。

宣教協働(姉妹教区) 関係締結書

父と子と聖霊のみ名によつて アーメン
日本聖公会大阪教区と台湾聖公会は、主にある愛の交わりの内にあつて、互いに祈り合い、信徒および聖職者の相互訪問や交流を深めるために、二〇〇四年五月三十日(聖霊降臨日)台湾聖公会宣教五十周年の感謝礼拝時に、双方の主教により宣教協働関係の仮締結を行いました。さらに二〇〇五年十月十六日大阪教区で締結式を行い、姉妹教区としての宣教協働関係を正式に締結しました。それから三年が経過した今、締結書を更新し宣教協働関係を二〇一一年末まで継続することにより、相互の理解と協力を深め、共に主の栄光をあらわし、福音宣教に邁進することを宣言します。

救主降生 二〇〇九年三月六日
台湾聖公会 聖テモテ教会にて

日本聖公会大阪教区 主教 大西 修
台湾聖公会 主教 頼 榮 信

青年が長期にわたつて滞在し、互いの言葉や学ぶ必要性が強調された。新しい提案として、個別教会同士の「姉妹関係」の締結が話し合われ、基隆の聖三一教会と庄内キリスト教会、嘉義の聖ペテロ教会と西宮聖ペテロ教会、高雄の聖テモテ教会と堺聖テモテ教会の3つの「姉妹教会」関係が浮上した。双方で真剣に検討されることを希望

8日の主日は、台北の聖ヨハネ主教座聖堂、淡水の降臨堂(聖ヨハネ大学チャペル)、台北・士林の牧愛堂、基隆の聖三一教会の4つの教会に分かれて聖餐式に出席した。大西主教は聖ヨハネ主教座聖堂で説教を担当し、岩城司祭は降臨堂で聖餐式を共同司式した。その後、それぞれの教会のメンバーと親密な交流を重ねることができた。
今回の訪問は、改めて台湾聖公会の人々の熱い思いと友情を感じることができ、また、より深いレベルでの交流の可能性を探ることができたという点で、大変、実りある、また恵みに満ちた訪問であった。(司祭 ペテロ 岩城 聰)

率直な意見交換と祈り

— 臨時教区会とその後の宣教懇談会 —

3月22日(日)午後2時から、主教座聖堂(川口基督教会)会館において、大阪教区第101(臨時)教区会が開かれた。この時期の教区会は、教区決算を審議し承認するために開かれるもので、ほぼ毎年この時期に定例化している。

教役者議員と教区会信徒代議員が集まる中、大西主教が最初に挨拶し、このようにすくなく集まることができるとはすばらしいと述べられた。議事は滞りなく進行し、平田徹会計検査委員からの決算監査報告の後、佐野重雄財務委員長

徒数の減少や教役者の激減、財政の縮小などの問題がすぐ足下に迫っている」と述べた。

た。そして、この日の懇談会のために各教会から寄せられた意見や提言は、信徒の皆さんのさまざまな思いやアイデアの宝庫であること、中には相対立する意見もあり、すべてが実行可能というわけではないが、主教も話されたように実行できることから実行していくことが大切であるとのべた。それを受けて、司会を務めた畑野めぐみ常置委員が、提出された意見に共通して指摘されている点について、次のようにまとめて報告した。

① 教役者数、信徒数の減少、高齢化については、共通して指摘している。また、このままではいけないという危機感も共通している。

② 信徒の学びや訓練の必要性も、共通して指摘している。

③ 教会の再編や合併については、意見が分かれている。統合すべきだという意見もあるれば、大切な教会がなくなる

クーパー先生の永年の働きに感謝



から、決算報告がなされ、決議によって決算は承認された。その後直ちに宣教懇談会が始められた。主教は挨拶の中で、現状を正しく認識し、実現できることは一つでも二つでも実行していきたいと語られた。その後、岩城常置委員長から、趣旨説明が行われた。岩城司祭は、日本聖公会全体が非常に困難な状況にあることを報告し、大阪教区も例外ではなく、信

④ 聖職は忙しすぎるのではないかと、教会だけでなく教区の仕事が負担になっているのではないかと指摘がある。

⑤ 今まで何回もこの種の懇談は行われてきたが、進展がない。実行することが大切だという指摘がある。

そして、そのまともを受け、①北摂地区、②阪神地区、③大阪北地区、④大阪南地区、⑤南部大阪地区という教区内の5つのブロックに分かれて、懇談が行われた。懇談の後、全体のまよめのセッションが開かれ、各地区から報告が行われた。報告では、具体的な提案として、家庭集会の充実化、牧師の職務を分析して信徒が分担できるものをマニュアル化する、定住者のいない教会への支援、それぞれの教会の創立記念式典を信徒を呼び戻す機会とする、教役者給与の教区一元化、教会の再配置、定年制の再検討、信徒神学校の開催(通信制も含めて)、信徒の指導者の養成プログラムなど多彩な提案がなされた。

最後に、大西主教がまよめのコメントを出され、「できることは積極的に進めていく。今後は青年だけとか、年齢別に懇談会を開いてはどうか。新しい意見が出されるかも知れない。」と述べ、さらに「教区とはそれぞれの教会、それぞれの信徒とは別のものではない。教区とは皆さんです。みんなが自覚的に、喜びをもって協働していることが大切だ。」と締めくくられた。最後に主の祈りと祝福をもって会を閉じた。

教区、教会の困難が指摘される中で、「危機は好機」という言葉通り、初代教会の精神からも学び、信仰に支えられて新しい道を歩み出そうとする意気込みの感じられる懇談会であった。また、信徒の皆さんから寄せられた意見や提言を印刷した資料は教役者および信徒代議員に配布されている。

なお、クーパー司祭は、この度定年退職され、英国に帰られることになり、教区会後、大西主教から感謝状と記念品が贈呈された。

(司祭 ペテロ 岩城 聴・常置委員長)

教区報では、新しい連載として、「主と共にあゆむ」を企画しました。毎号、各教会の信徒の方に執筆していただきます。

聖公会信徒の家庭に育った者にとって日曜日の礼拝

に出席するのは当然のこと、とくに礼拝する生活の意味を自分から考えることもなく過ごしておりました。しかし実は折々に礼拝の場を通してそのことについて問

か判断としないままで卒業となりました。

次に進学した学校では礼拝に出席している教職員や学生の属している教派はローマ・カトリックから無教会まで実にさまざまと知り、しかもその違いを超えた交わりを目に

主と共にあゆむ 1

礼拝に導かれて

宗像千代子



いかげられ、考える機会を頂いた歩みであったことを今感謝しております。

まずキリスト教主義の学校に進み聖公会以外の礼拝をはじめて体験します。学校礼拝で唱える主の祈りの言葉が教会のそれとは少し違うため使い分けることになりました。全員で暗誦した聖句の中の「主は一人、信仰は一つ」を思いつつ何

して感動しました。「信仰は一つ」とは 形式や言葉使用や教派の違いにこだわることは無縁であると示され、立場の違う人々が一つになってささげる礼拝が楽しみになりました。同時に主日に通う聖公会の教会では礼拝の中での所作などは一様でないことも知りました。少しずつ世界が開かれていくようでした。

その後、庄内伝道所の開拓

堂の中を走り回っていたのに話はしっかり聞いている子ども、真剣な目で鋭い質問を投げかけてく子どもたちの姿を通して、しばらくかかりましたが、やはりここに主はおられると思ひ直すことができました。

今、聖贖主教会の礼拝には0才から104歳までの人々が集います。礼拝の始まる前に「博愛の園」にお迎えに行

時代に、借家の一部屋に座布団を敷き素朴で家庭的な、しかし新しい会堂を熱心に祈り求める礼拝を通して小さな群れが一つにされ、育てられて前進する勇気をいただく経験を致しました。

教会学校の子どもたちとの礼拝はとてもダイナミックでした。

子どもたちが羽目を外しすぎ騒々しい礼拝になることもあり、この有様で礼拝とい

き、車いすや徒歩で一緒に、階段の昇降などのお手伝いも致します。そうして礼拝の中では、子どもたちも高齢の方も声を合わせる事が出来るように、一緒に唱える式文をゆつくり唱え、集められた私たちが一つになって祈ることの出来る喜びをかみしめています。

そうして礼拝の中で受けた恵みを週日の生活の間でも生かされるように、礼拝と暮らしがいつも結ばれているようにと願っています。

かなり前のことになりましたが「霊と真理をもって礼拝する」ことについての説教を一部思い出します。わずかな現金収入で暮らす生活の中で、新しい紙幣が手に入ると日曜日の献金のため取り除けておき、もしなければ古い紙幣にアイロンをかけて用意する人々の生活にふれ、礼拝と生活がしっかりとつながっているこの生き方がこの言葉の意味ではないだろうかと言われたのでした。

(むなかた ちよこ・聖贖主教会信徒)

世界の窓

◎カナダでの聖公会と福音ルーテル教会の協働について協議が行われた

3月17日から18日、トロントにおいてカナダ聖公会とカナダ福音ルー

テル教会の指導者たちが集い、両教派の協働についての協議を重ねた。両派は2001年から共同陪餐を行っており、それは堅信を相互に認め合い、両派の信徒が両派の教会で陪餐することができ、聖職者も両教派のどちらの教会でも聖餐執行できることを意味するものである。この度の協議において両派の関係を更に強め、2013年にオタワで行われる両派合同の総会に向けて、将来的に両派のオフイスを分かち合う可能性も含めて計画している。

(2009/3/22/The Anglican Journal)

(司祭 ヤコブ 松平 功)





松平司祭の指導で黙想する参加者

大斎節黙想会・洗礼の約束の更新

宣教部生涯学習委員会主催で、初めての試みとして大斎節に黙想会が開催されました。この黙想会では、洗礼を受けたときにどのような約束をしたのか思い起こし、「死から命へ」導く洗礼の意味をもう一度考えるときとなりました。松平司祭の黙想指導と、夕の礼拝の2部構成でした。

できるだけ多くの方が参加できるようにと思い、土曜日の夕刻を選び、場所は大阪聖パウロ教会にいたしました。初めてのことで、なじみがなかったのか、参加者は22人で、主催者としては残念でしたが、継続することで恵みを受ける人が増すものと希望を持っています。

(司祭 ダニエル山野
上 素充・生涯学習委員長)

ペンテコステ ヴィジル 第3回 聖霊降臨日 前夜の礼拝

一人一人の霊の働きが現れるのは、全体の益となるためです。
第1コリント 12・7

日時：2009年5月30日(土) 17時～18時
場所：カトリック大阪カテドラル聖マリア大聖堂(カトリック玉造教会)
参加費：自由献金
司式：サムエル 大西 修 主教(日本聖公会)
井上 隆晶 牧師(日本基督教団)
ミカエル 松浦 悟郎 司教(カトリック大阪大司教区)
説教：サムエル 福田 光宏 司祭(日本聖公会)

※礼拝終了後、交流会を予定しております。
※ペンテコステはギリシア語で50番目の意味でご復活から50日目の日を表し、ヴィジルは夕の祈りという意味です。

主催 聖霊降臨日前夜の礼拝実行委員会

み言葉を聞く



主日の聖餐式あるいは朝の礼拝(み言葉の礼拝)の中で、聖書が読まれます。聖餐式では司祭の「聖書のみ言葉を聞きましょう」という呼びかけの後、旧約聖書、使徒書、そして福音書が読まれます。皆さま

んはどのようにみ言葉を聞いていますか。聖書を見ていますか。あるいは聖書を見ながら聞いていますか。「聖書のみ言葉を聞きましょう」と呼びかけられているのですから、聞くことにすべの思いを集中させましょう。み言葉を聞く、み言葉に耳を傾けることはとても大切です。

福音書が朗読される時、全員が立って朗読者の方を注視します。これはみ言葉を聞く大切さを所作で表わしているのです。

近頃ではどこの教会でも、多くの信徒が聖書朗読を担当します。とても素晴らしいことです。朗読者が心がけることは、ただ読むのではなく、聞いている人々がいることを心にとめて、分かりやすく、聞きやすく、目を閉じて聞いて

いてもわかるように読むことです。ですから朗読箇所を前もって読んでおくことは大事な準備です。

礼拝で読まれる聖書のみ言葉は、各自が家でも自由に読む場合とは意味合いが違うことを覚えておきましょう。

(主教 サムエル大西 修)

オルガン講習会のお知らせ

5月24日(日)午後1時～同3時
大阪聖愛教会

大阪聖愛教会から礼拝・音楽委員会に“出前講習会”の依頼がありました。基本的なことを学びます。どなたでもご参加ください。

礼拝・音楽委員会

キリスト者として 東アジアに住む者として

シンポジウム『朝鮮半島と日本の和解—わたしたち教会にできること—』

2009年3月28日、川口
基督教会において、大韓聖公
会イェジウの李在禎司祭（聖公会大学
教授・韓国政府統一部前長
官）、前島宗甫シムムネフミ日本基督教団
牧師（元日本キリスト教協議
会総幹事・元関西学院神学部
教授）、谷昌二タニマサニ沖繩教区主教
（日本聖公会正義と平和委員
会委員長）をお迎えして、大
阪教区在日韓国・朝鮮人宣教
協働委員会主催でシンポジウ
ムを行った。教会の方々、在
日韓国・朝鮮人の方々、研究



前列左から、通訳の金成元さん（在日韓国キリスト教会
館幹事）、李在禎司祭、前島宗甫牧師、谷昌二主教

者など100人を超える方の
参加があり、北東アジアの平
和に対する関心の高さがうか
がわれた。

まず、大西修主教の開会祈
禱に始まり、李在禎司祭の講
演、また講演を受けての前島
牧師、谷主教のコメント、会
場からの質疑応答と続いた。

李在禎司祭の講演は、キリ
スト者としてまた韓国政府統
一部前長官としての具体的な
南北政府の関係、アメリカ政
府と日本政府、それぞれの北

朝鮮への対応を歴史
的な背景を踏まえて
の配慮と思慮に富ん
だものであった。そ
の中でも、「朝鮮半
島にどうすれば、平
和が訪れるのか」と
いう内容で、「朝鮮
半島と北東アジアの
平和を目指す4つの
目標」に触れられた。
朝鮮半島は、189
4年から始まった日
清戦争、1904年

から始まった日露戦争の戦場
となり、また1950年から
始まった朝鮮戦争は1953
年に停戦協定が結ばれたもの
の、未だ終戦には至っていな
い。つまり、朝鮮半島はまだ、

「戦争状態」といえる。その
中での、李在禎司祭の「平和
を目指す4つの目標」は、第
一に北朝鮮とアメリカ・日本
と北朝鮮の国交正常化をする

こと。第二に周辺国の対北
朝鮮敵対政策の解除するこ
と。第三に日本をはじめとし
た国際社会の経済制裁処置を
解除すること。最後に、「こ

れが一番重要なことだが」と
いう前置きで、北朝鮮に対す
る軍事的脅威の解除をするこ
と、という内容のものであった。
北朝鮮と「和解」するにはキ
リストの愛に基づいた包括的
なアプローチが必要であり、
「平和的に冷戦状態を取り除
き、対話によってなされるこ
と」が重要なことであると
言われた。「隣人愛」とは単に
近くにある人を愛することだ

けではなく、遠くにいる「敵」
をも愛することだとの指摘は、
心に刺さる言葉であった。

私は以前、ある青年交流プ
ログラムで北朝鮮にある金剛
山という観光地を訪れた。出
会った北朝鮮在住の女性か
ら「日本という国に興味があ
る。お互いに行き来ができる
関係になればいいのに」と

本音のようなつぶやきを聞い
た。その言葉と日本国内で報
道されている「北朝鮮の姿」
にとっても戸惑いと北朝鮮に対
する単純な驚きを感じたのを
憶えている。李在禎司祭が繰
り返し言われた「平和的対話」
とは、このように対面し、直
接話をするようなのではない
だろうか。この交流プログラ
ムで北朝鮮に行った青年たち
は皆、「北朝鮮という国は怖
い国ではない」、「共存してい
かなければならないパートナー
」と考えている。

また、李在禎司祭は、キリ
スト者としてどのようにこの
「平和的対話」を行ってお
られるのだろうか。そこには
「隣人をあなたのように愛し
なさい」というイエスの呼び
かけがある。この「隣人」とは、

敵対する人、憎しみを覚える
人を愛することでもあると言
われた。そして、さらに神さ
まから与えられている恵みが
信仰によって「隣人」を愛す
ることができたとき、一つ一
つ東アジアでの「平和」に近
づいていくと信じていたい。また
講演者の先生方が、「できる」
と力強く証ししていただいた。
李在禎司祭・前島牧師・谷主
教のお話はとても分かりやす
く、また「キリスト者として
どのように、進んでいけばよ
いのか」という方向性を示し
ていただいた。今後、日韓・
日朝関係や南北関係はダイナ
ミックに変化していく可能性
がある、と今回のシンポジウ
ムを通して感じた。どのよう
な形になっていくか、またど
のような統一がなされるのか
は分からないが、再び北朝鮮
に行き、金剛山で出会った女
性と再会したいと願っている。

この日の集まりは、会場か
らの問いかけも含め、真剣で
活発なひとときであった。

（浅海 由里恵・あさうみ
ゆりえ 在日韓国・朝鮮人
宣教協働委員会委員・ガブ
リエル教会信徒）



教区関係教役者
逝去者記念聖餐式

◇5月13日(水) 午前11時
於 主教座聖堂(川口基督教会)
説教者 山根貞夫 司祭

- 司 祭 米村 健治 (1919.5.15)
- 伝道師 小幡 久能 (1961.5.24)
- 司 祭 アーネスト・ゴードン・ハッチンソン (1973.5.29 英)
- 宣教師 メーベル・C・バックス (1984.5.30 英)

◇6月17日(水) 午前11時
於 主教座聖堂(川口基督教会)
説教者 宇野 徹 主教

- 司 祭 ロバート・マルコム・ミルマン (1945.6.3 加)
- 司 祭 オーガスチン 芦澤 光雄 (2002.6.4)
- 司 祭 チャールズ・フレデリック・ワレン (1899.6.8 英)
- 司 祭 ウィリアム・ペンジェリー・バンコンブ (1942.6.10 英)
- 司 祭 ジョージ・デンブシー (1960.6.11 英)
- 司 祭 ダニエル 植村 信久 (1980.6.13)
- 司 祭 ステパノ 橋本 節 (1996.6.15)
- 司 祭 アーウィン・ヘンリー・コレル (1926.6.16 米)
- 伝道師 マルタ 檜内 晰子 (1946.6.18)
- 司 祭 ベニヤミン 東 信行 (1943.6.19)
- 司 祭 牧岡 鉄弥 (1919.6.20)
- 司 祭 ルイス・パーキンソン・ヒル (1943.6.22 英)
- 宣教師 エデイス・メアリー・バーナウ (1944.6.29 英)
- 主 教 横田 道信 (1946.6.29)
- 宣教師 アリス・マリアン・コックス (1949.6.29 英)
- 司 祭 ヨハネ 荒木 久雄 (1988.6.30)
- 司 祭 パウロ 水谷 博彦 (2008.6.30)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前11時から、川口基督教会で行われます。6月は臨時で第3水曜日に行われますからご注意ください。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加のうえお祈りください。

3月20日から21日にかけて、守口復活教会にて第4回ジュニア・ユース・キャンプを行いました。参加者は高校生2人、スタッフが3人と小規模なものでしたが、とても充実した2日間を過ごすことが出来ました。自分と向き合うこと、そして自ら考えて行動することの大切さを学んだ2日間だったと思います。1

筋道を立ててもものごとを考える

第4回ジュニア・ユース・キャンプ

上田 結子

日目のフライデー・アワーでは、参加者が高校3年生であったため、山野上素充司祭から大学生活のアドバイスがありました。大学とは筋道を立てて物事を考える、その考え方を学ぶ場所であるという言葉が非常に印象的でした。

また、「JY学校」というプログラムでは、参加者ひとりひとりが教師となり、自分の好きな題材で10分間の授業をしました。人に何かを教えるとき、その事柄についてまず自らがその事柄をしっかりと理解する必要があります。更にその事柄を伝えるためには筋道を立てて説明をしなければなりません。まさにこのプログラムで、「筋道を立てて物事を考える」ことの難しさを感じたことと思います。そ

して、このジュニア・ユース・キャンプで毎回行っているテゼの時間では、夜の静かな礼拝堂でろうそくの灯りを見つめながら、聖書のみ言葉を聞き、祈り、歌を歌いました。日常とは切り離された空間で、自らと向き合うときを過ごせました。

ところが魅力のキャンプです。教区の高校生同士が会場う場教会について考える場、そして大学生になる準備をする場であると思います。これからもこのキャンプが教区の大切な働きとして継続し、発展してゆくことを願っています。教区の皆様のご協力とお祈りをよろしくお願ひ致します。(うえだ ゆうこ・生涯学習委員・JYキャンプ担当 聖ガブリエル教会)

公 示

救主降生 2009 年 3 月 1 日
日本聖公会大阪教区主教
主教 サムエル 大西 修

日本聖公会法規第 25 条及び第 34 条、第 53 条に基づき、以下の人事を発令します。

- | | | |
|----|------------|--|
| 司祭 | ヨ ハ ネ 成田邦雄 | 3 月 31 日をもって大阪聖パウロ教会牧師及び聖贖主教会管理牧師の任を解き、4 月 1 日付で主教座聖堂付の勤務を命じる。 |
| 主教 | サムエル 大西 修 | 4 月 1 日付で聖贖主教会管理牧師に任命する。 |
| 司祭 | ダニエル 山野上素充 | 4 月 1 日付で大阪聖パウロ教会管理牧師に任命する。 |
| 司祭 | パメラ A.クーパー | CMS の定年により 3 月 31 日をもって退職とする。 |
| 執事 | アンデレ 田宮 紘 | 3 月 31 日をもって聖ルシヤ教会の任を解き、4 月 1 日付で主教座聖堂付とし、釜ヶ崎地域の宣教担当を命じる。 |
| 司祭 | ペ テ ロ 岩城 聡 | 3 月 31 日をもってプール学院の非常勤チャプレンとしての勤務を解き、4 月 1 日付で、聖ルシヤ教会牧師に任命し (兼任)、並びに、プール学院チャプレンとして勤務することを命ずる。 |
| 執事 | フランシス 趙 鍾必 | 4 月 1 日付でプール学院の非常勤チャプレンとして勤務することを命じる。 |
| 主教 | ヤ コ ブ 宇野 徹 | 4 月 1 日付で、主教サムエル大西修のもとで、聖贖主教会において囑託司祭として勤務すること、及び、社会福祉法人博愛社においてチャプレンとして勤務することを委嘱する。 |
| 司祭 | ペ テ ロ 松山龍二 | 4 月 1 日付で、司祭ペテロ齋藤壺のもとで、聖ガブリエル教会において、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。 |
| 司祭 | ダニエル 小池慶二 | 4 月 1 日付で、司祭ヨハネ鍋島守一のもとで、富田林聖アグネス教会において、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。 |
| 司祭 | サムエル 坪井克己 | 4 月 1 日付で、司祭ダニエル山野上素充のもとで、大阪聖パウロ教会において、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。 |
| 司祭 | サムエル 松岡慶一 | 4 月 1 日付で、司祭ヨシユア原田光雄のもとで、聖ルカ教会において、囑託司祭として主日を中心に勤務することを委嘱する。 |

教 区 の 動 き

常置委員会報告

1 月 13 日 (第 3 回定例)

主教報告

- ① 1 月 1 日付にて、執事パウロ井上進次を司祭ヨハネ奥康功のもと、尼崎聖ステパノ教会牧師補に任命した。
- ② 第 101 (臨時) 教区会を 3 月 22 日 (日) 午後 2 時より主教座聖堂で開催すべく公示する。1 月 15 日に行なわれるソウル教区・金根祥主教就任式に出席する。
- ④ 3 月 1 日をもって教区内 22 全教会の巡回を終わる。

教務局長報告

- ① 先月承認された信徒奉事者の認可状 (9 教会 32 名) を発行した。
- ② 3 月開催臨時教区会後の懇談会についての主な内容は、日本聖公会宣教協議会に向けての準備になるよう計画する。

- ③ 東京教区招聘のハーパー氏、アテイク司祭両名の関西での講演会は、宣教部が担当することとする。

協議事項

- I. 第 1 回 (2008-11-24)、第 2 回 (2008-12-09) 常置委員会議事録を承認した。
- II. 第 100 (定期) 教区会議事録が朗読され承認した。
- III. 第 101 (臨時) 教区会後の宣教懇談会の内容について協議した。
- * 教区における現下の押し迫った状況について、具体的な内容を継続的に話し合う必要を認めた。
- IV. 人事の件
 - * 4 月からの異動について協議し、主教の諮問に答えた。
- V. 2009 年度教役者・教区職員給与承認の件
 - * 全員について異議無く承認した。
- VI. ウイリアムス神学館の新しいカリキュラム
 - (次頁につづく)

*伝道師養成コース、信徒奉事者養成コースについて協議。

Ⅶ. セクハラ防止委員会
*早急に対処することとした。

2月3日(第4回定例)

主教報告

- ① 1月15日、ソウル教区・金根祥^{グンサン}主教就任式に出席した。
- ② 2月1日付で尼崎聖ステパノ教会における井上進次執事による「み言葉の礼拝と陪餐式」の執行を許可した。
- ③ 教区諸委員会、諸教会の委員会など全てに女性メンバーが選ばれるよう配慮願いたい。
- ④ 日本聖公会宣教150周年記念礼拝が9月23日に東京で行われるので、一層の祈りとアツピールをお願いしたい。
- ⑤ 2〜3月の巡回予定について、3月1日の聖ルカ教会をもって教区の全教会を巡回したこととなる。
- ⑥ 3月5日より台湾聖公会を訪問し、3月8日には台北の聖ヨハネ大聖堂で説教を

教務局長報告

する。

- ① 第101(臨時)教区会後の宣教懇談会が計画され、教区主教より各教会委員会宛に文書が配布されている。
- ② 3月28日開催の講演会「朝鮮半島と日本との和解―わたしたち教会にできること―」は大坂教区宣教部/在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会主催であり、大韓聖公会司祭の李在禎^{イジュン}聖公会大学教授(韓国政府統一部前長官)を講師にお迎えし、元NCC総幹事・前島宗甫牧師、谷昌二主教(正義と平和委員会)委員長)を発言者として実施する。
- ③ 日本聖公会「正義と平和委員会」では、「イスラエル・パレスチナ戦争の即時停戦をもとめる」声明を出し、イスラエル大使、日本の首相、米国大使および全公会に送付、また署名を求めている。

協議事項

I. 第3回(2009.1.13)常置委員会議事録を承認した。

II. 4月1日付け人事異動案に同意した。(3月1日付け公示)

III. 聖パウロ教会の英語礼拝について、今後教区が主体となつて実行委員会を設けて4月より新たに開始することとした。以上



祝受洗

芦屋聖マルコ教会
マリア 元浦 愛泉
(3月29日)



祝受按

芦屋聖マルコ教会
インマヌエル 宮本 汀
(3月15日)

大阪聖パウロ教会

マリア 大原 晴子
アンナ 黒崎 洋子
(3月22日)

大阪聖愛教会

マリア 小椋美由起
(2月22日)

2009年度 日本聖公会 大阪教区婦人会 昇天日礼拝・総会

- ◎ 5月21日(木)
- ◎ 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)
- ◎ 午前10:30~ 聖餐式 昼食後 総会

司式 司祭 テモテ 内田 望 (教区婦人会チャプレン)

説教 主教 サムエル 大西 修

(信施金は大阪教区神学生後援会のためにお届けします。)

教会・施設の動き

- クララ 米田 聖音 (2月22日)
- 魂の平安を祈ります
- 東豊中ミカエル教会 ルポ 秋田 光る (1月10日・92歳)
- 大阪聖パウロ教会 ヨセフ 小川 彰 (2月16日・87歳)
- 石橋聖トマス教会 ○フライデーナイト映画会 4月17日(金)午後7時「おくりびと」上映 5月15日(金)午後7時「クライマーズハイ」上映。いずれも無料です。
- 5月10日(日)午前11時 石橋聖トマス教会創立50周年記念礼拝 同 午後1時30分 創立50周年祝賀会
- 5月24日(日)午前10時30分〜2時30分「子どもフェ

ステイバル」

「子どもフェスティバル」は教会の各部会と阪大のサークルが協力して子どもたちと遊びながら宣教活動をする催しです。

芦屋聖マルコ教会

○愛光幼稚園では、3月17日(火) 午前10時より芦屋聖マルコ教会礼拝堂において第88回卒園式を執り行いました。26人が元気いっぱい、喜びにあふれてこの日を迎え、お父さん、お母さん、教会の皆さんの祝福のうちに無事に卒園しました。大西主教様から祝電を頂き、保護者会の皆さんも大感激でした。

○芦屋聖マルコ教会では3月15日、大西主教様をお迎えして堅信式が行われました。主教様の2度目の御来芦、教会学校の礼拝でも、婦人会の例会でもお話をねだりし、有意義な主日をおすごしました。

『聖霊降臨日』(5/31「海外伝道の日」)の信施

パレスチナ・ガザ地区の子どもたちの栄養支援を！

2008年末からイスラエルによるガザへの攻撃で、1300人を越える人々が犠牲となり、多くの子どもたちも亡くなりました。それ以前か

らも境界が封鎖され、常に生活に必要な物資が不足している中、状況は更に厳しくなり、多くの子どもたちが栄養失調の危機に直面しています。

宣教部では、2005年以来おささげしましたJVC(日本国際ボランティアセンター)を通じてパレスチナ・ガザ地区の子どもたちの栄養支援を、今年も継続することを決めました。皆様のご理解とご支援を節にお願ひ申し上げます。(宣教部長 司祭 齊藤 壹)

編集後記

田宮執事が釜ヶ崎宣教担当となり、4月1日付で松平功司祭が後任の委員長となりました。今号より広報委員会は、奥 康功司祭、鍋島守一司祭、大橋襄さん(川口)、小川淳子さん(ヨハネ)、畑野めぐみさん(マルコ)、林義人さん(マリヤ)で構成されています。



パレスチナ・イスラエルの大地に共生を
— ガザ虐殺と占領 —

ジェフ・ハーバー博士(イスラエル人・元大学教授)と
ナウム・アティーク司祭(パレスチナ人・聖公会司祭)を
お招きして

講演と
交流集会

時：4月22日(水) 午後6時~8時30分

所：城南キリスト教会

参加費：¥500-

(定員 150 人を越えた場合はモニターでの聴講となります。)

共催：日本聖公会大阪教区宣教部、日本キリスト教団大阪教区社会委員会、パレスチナの平和を考える会
協賛：アハリー・アラブ病院を支援する会、アムネスティ・インターナショナル日本、大阪YMCA、大阪YWCA国際部委員会、カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピス、関西共同行動、関西NGO協議会、在日大韓基督教会関西地方会社会部、日本聖公会京都教区教務局社会部

大阪教区子ども礼拝

キッズフェスティバル 2009

まいごのひつじは きみだ！

「その一匹のことを喜ぶだろう」

(マタイ 18:10~14)



2009年 4月29日(水・祝)

10:00 ~ 15:00

会場：川口基督教会

主催：大阪教区 宣教部生涯学習委員会
(委員長 司祭 ダニエル 山野上 素充)

- 問い合わせ…石橋聖トマス教会 TEL 06-6854-8657
キッズフェスティバル実行委員会：斎藤みち
- 申し込み…石橋聖トマス教会 FAX 06-6854-8658